

生活文化としての温泉

旅先で温泉に入るのは、贅沢な楽しみの一つ。

でも、「お風呂に入ること」、それは生活の一部でもあって、日常的なことでもある。

ここ、山形市には、そんな特別と日常が融合した、贅沢な「温泉文化」が根付いている。

この場所で暮らす人々の日常と、密接に絡み合って発展してきた山形市の温泉を覗けば、街の顔がよく見えてくるはず。

東北の厳しい寒さと、湯治や修行に訪れる人々を癒してきた歴史が、山形の温泉文化を育んできた。言わずと知れた名湯であり、冬は雪山での観光やアクティビティも人気の「蔵王温泉」。その開湯はなんと1900年前と伝えられているから驚きだ。

蔵王温泉露天風呂は、古くから傷や病を直す湯治場として知られてきた蔵王温泉を象徴する浴場。全国でも有数の強酸性の白濁したお湯が特徴で美肌効果がある美人の湯、と評判。

森林に囲まれた溪流治いにあり、秋には紅葉を楽しみ、冬には雪が降る中で入る露天風呂は格別。

温泉街の中心地「蔵王温泉高湯通り」には、創業300年を超える歴史を持つ代表的な温泉旅館「深山荘」をはじめ多くの温泉旅館が立ち並ぶ。

お山参りをする人や旅人が集まって、疲れを癒す場を求める需要が増え、温泉街として活気を持つようになったとか。

新左衛門の湯は、足湯も楽しめる日帰り温泉施設。五右衛門風呂や内湯もあり、アクセスもしやすい。宿泊しなくても、他のスポットの観光ついでに、ふらっと温泉だけを楽しめるのが日帰り温泉の嬉しいところ。

ところ変わって、沼木温泉辻ヶ花も、地元の人や観光客に愛される温泉の一つ。蕎麦の実畑や田園風景の中に現れる湯けむり。遠くには山を望み、東北らしい癒しの温度が体を包む温泉浴場。

一年の中で、他の地域と比べて冷え込む日も多い山形にはこうした温泉が多く、人々の暮らしを支えてきた。その歴史のバトンは、日常を忘れて夢中になれる、新しい温泉スタイルにもつながっている。

施設内で一日を贅沢に過ごせる、悠湯の郷ゆき&おぐろcafé yusa。

地元の人には「どき？ゆき」で馴染みの深い施設。黒沢温泉に位置するこの施設は、露天風呂付客室を備えており、誰にも邪魔されずに黒沢温泉のお湯と景色を独占できる。

ブックラウンジやロウリュサウナなどの設備もあり、温泉に入るだけでなく、ゆったりとくつろぎながら、自分だけの時間を満喫できる。カプセルでサウナに入れるのも魅力的。

自然の中で、心ゆくまでデトックスするのもいい。

足湯や日帰り温泉で、観光のスキマ時間にふらりとお湯を堪能するのも、またいい。

あるいは、一日中遊ぶように贅沢な余暇を過ごすのも。

色とりどりの楽しみ方ができる、この湯めぐり。

湯けむりに誘われて、私だけの癒しを見つける旅へ。

歴史と湯めぐりが重なる場所

蔵王温泉

山形市を代表する温泉地が、蔵王温泉です。その開湯は、約 1900 年前に遡ると伝えられています。古くから湯治場として親しまれ、蔵王権現への参拝とともに発展してきました。

蔵王温泉の大きな特徴は、白く濁ったお湯と硫黄泉の香り。湯けむりが街全体を包み込みます。この泉質は、肌をすべすべにするとわれ、古くから「美人の湯」としても知られてきました。

街の中には、旅館やホテルの温泉だけでなく、「上湯・下湯・川原湯」といった共同浴場が点在しています。宿泊しなくても、地元の人と同じように温泉を楽しめるのが、蔵王温泉らしいところです。

溪流沿いに広がる「蔵王温泉大露天風呂」では、自然に包まれながら湯に浸かる、蔵王ならではの時間を味わえます。

蔵王温泉の中心を通るのが、高湯通り。老舗旅館をはじめ、多くの宿や店が立ち並び、参拝者や旅人が自然と集まる場所として温泉街の賑わいを支えてきました。湯けむりと硫黄泉の香りに包まれながら歩くと、この街が「泊まる場所」だけでなく、人が行き交う生活の場だったことが伝わってきます。

新しい温泉のかたち

近年は、温泉を「一日楽しむ」場所も生まれています。

「悠湯の郷 ゆさ&おふろ café yusa」は、温泉に入り、本を読み、サウナで整えるなど、時間そのものを楽しむ温泉。地元では「どさ?ゆさ」と声をかけ合うように、日常の延長として親しまれています。

自然の中でじっくり癒される。観光の合間に、少しだけ湯に浸かる。あるいは、一日を使ってゆっくり過ごす。サウナ後のサ飯カレーやジェラート、ドリンク、不定期で開かれるワークショップなど、湯上がりの時間まで楽しめる多彩なコンテンツも、この場所の魅力です。

山形市の温泉は、入り方を選べる温泉です。湯けむりに誘われながら、自分に合った癒しを見つける。それが、「生活文化としての温泉」です。

悠湯の郷 ゆさ&おふろ café yusa

〒990-2311 山形県山形市大字黒沢 319-2

暮らしに近い温泉

山形市の温泉文化を語るうえで欠かせないのが、日帰り温泉の存在です。

「新左衛門の湯」などは、観光の合間にふらりと立ち寄れる気軽さが魅力。足湯や内湯を楽しみながら、短い時間でもしっかり癒されます。

「沼木温泉 辻ヶ花」は、蕎麦畑や田園風景に囲まれた温泉です。静かな環境とやわらかな湯が、山形らしい落ち着いた癒しを与えてくれます。

山形市郊外、田んぼの真ん中にある「百目鬼温泉」は、地域住民が資金を出し合って作った日帰り温泉。ローカルな温泉を楽しみたい方におすすめ！

新左衛門の湯

〒990-2301 山形県山形市蔵王温泉川前 905

沼木温泉 辻ヶ花

〒990-2471 山形県山形市羽黒堂 63

百目鬼温泉

〒990-2361 山形県山形市百目鬼 42-1

color 01

生活文化としての温泉

旅先で温泉に入ることは、特別な楽しみのひとつですね。

けれど山形市では、温泉は「非日常」であると同時に、

日々の暮らしに溶け込んだ存在でもあります。

この街の温泉をたどると、山形で生きてきた人々の生活や価値観が、自然と浮かび上がってきます。

東北・山形は、一年を通して冷え込む日が多い土地です。

その中で、湯治や参拝、修行に訪れる人々を癒してきたのが温泉でした。

温泉は、体を温め、立て直すための場所。

山形の温泉文化は、生きるための知恵として育まれてきたものです。



温泉街さんぽの寄り道

蔵王温泉・高湯堂の「湯みくじ」は、“運勢”じゃなくて「温勢(おんせい)」を占う、ちょっと特別なおみくじ。絵馬みたいな形の全 26 種類から 1 枚を選んで、温泉に 5 秒そっと浸すと、文字がじわじわ浮かび上がってきます。出てくる瞬間がいちばん可愛くて、思わず動画に撮りたくなるはず。1 枚 300 円なので、温泉街さんぽの“ひとつだけ体験”にもぴったりです。

〒990-2301 山形県山形市蔵王温泉 19

